

スライド動画の音声文

< P 1 : 表紙 >

横浜市東部方面斎場の整備について、建物設計に関する検討状況を説明します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度に引き続きホームページで動画を配信する形式としました。

何卒ご了承ください。

< P 2 : 目次 >

説明は、3つの構成で、内容としては、「Ⅰ 横浜市の現状」、「Ⅱ 建物の設計状況」、最後に「Ⅲ 今後のスケジュール」を説明します。

I 横浜市の現状

< P 3 : 目次 >

では、まず、「横浜市の現状」について説明します。

< P 4 : 市内斎場の配置図（現在） >

こちらは、市内斎場の配置図です。

赤色でお示ししているのが市営斎場で、左上の方から、緑区にある北部斎場、戸塚区にある戸塚斎場、金沢区にある南部斎場、西区にある久保山斎場の4か所です。

火葬炉数は、北部斎場の予備炉2炉を含めて、合計44炉を設けています。

また、青色でお示ししているのが民営の斎場で、西寺尾火葬場では10炉を設けています。

< P 5 : 最近5か年の市内死亡者数 >

こちらは、過去5か年に市内で亡くなられた方の推移を表したグラフです。

令和2年の1年間、市内で亡くなられた方は、33,923人となっており、毎年増加傾向となっています。

< P 6 : 市内斎場の火葬実績 >

こちらは、市内斎場の火葬実績です。市内の5つの斎場の火葬実績は、近年、増加傾向が見られ、令和2年度は33,497件となっています。

< P 7 : 市営斎場の火葬待ち日数 >

続いて、こちらは、市営斎場の火葬待ち日数の推移です。火葬できるようになってから、実際に火葬されるまでの平均日数です。平成 28 年度は 4.01 日でしたが、令和 2 年度は 4.56 日となっており、年々長くなっています。

なお、こちらの日数の計算方法については、法律上、死亡後 24 時間以内は火葬できないため、死亡日の翌日から起算しています。火葬待ち日数が 4 日ですと、実際に亡くなってから、火葬するまでの日数としては 1 日を足した 5 日となります。

< P 8 : 横浜市の死亡数推計 >

こちらのグラフは、今後の死亡者数の推計です。

死亡者数は、今後も増加していくことが予想され、令和 47 年には 5 万人を超えるの見込まれています。

< P 9 : 市内斎場の配置図（計画） >

そこで、今後も増え続ける火葬需要に対応するため、鶴見区大黒町において、東部方面斎場を整備することにしました。

整備地については、高齢者人口の増加数、市営斎場の利便性向上、災害時の被害リスクの分散化の観点から、平成 30 年 1 月に鶴見区大黒町に整備することを発表しました。

II 建物の設計状況

< P 10 : 目次 >

次に「建物の設計状況」について説明します。

< P 11 : 計画地 >

東部方面斎場は、鶴見区大黒町に計画しています。

地図の赤色で示した場所が計画地で、京浜急行線の「生麦駅」から南に約 1.2 キロメートル、首都高速道路「生麦インター」から南に約 0.8 キロメートルに位置しています。

< P 12 : 計画地 >

こちらは、計画地周辺の航空写真と、計画地についての概要です。

計画地は、面積が約 1 万 1 千平方メートルあり、現在、鶴見区スポーツ広場や駐車場として利用されています。

また、計画地周辺には、工場や物流施設が立地しており、南側の神奈川産業道路と、東側の横浜市道に面しています。

< P13 : 建物構成イメージ >

次に、建物構成イメージについて説明します。

建物の規模は、延床面積が約2万2千平方メートルで、階数は地上4階、地下1階です。
右側の図をご覧ください。

地下1階は、主に駐車場とします。

1階は、葬儀式場等を配置します。

2階は、火葬炉や炉前ホール等を配置し、車寄せを設けます。

3階は、火葬の間、お待ちいただく待合室等を配置します。

4階は、機械室や津波避難スペース等を配置します。

各階へのアクセスについて説明します。

来場車両は、スロープで地下1階の駐車場、2階の車寄せまでアクセスします。

斎場利用者の移動は、地下1階から3階までエレベーターで上下移動します。

火葬部門の2階と3階の間には、エスカレーターも整備します。

また、津波発生時には外部から屋上へアクセスできる屋外階段を設置します。

< P14 : 配置計画 >

次に、配置計画について説明します。

敷地に設ける車両の出入口は、南側の神奈川産業道路と東側の市道に1か所ずつ設けます。

< P15 : 配置計画 >

こちらは、計画地周辺図と配置図を並べています。

神奈川産業道路の沿道には、斎場計画地から既存公園まで連続性を考慮した緑地を整備します。

斎場計画地内にある緑地には、歩行者用のアプローチを設けます。

< P16 : 地下1階平面図 >

次に、各フロアについて説明します。

地下1階は、駐車場とします。

駐車台数は、地上1階部分と合わせて150台を計画しています。

< P17 : 地下1階平面図 >

中央には、地下1階から3階まで連絡するエレベーターを配置します。

< P18 : 1階平面図 >

1階について説明します。

1階は、主に通夜・告別式等を行うフロアとしています。

< P19 : 1階平面図 >

図の中で、濃い赤色で示している葬儀式場は、中央の約50人用の式場2室に加えて、約20人用の式場を1室設けます。

中央の約50人用の式場は、可動間仕切りを移動し、2室をあわせて一体的な式場としてもご利用いただけます。

< P20 : 2階平面図 >

2階について説明します。

2階は、主に火葬を行うフロアとします。

< P21 : 2階平面図 >

火葬炉16炉を、図の黄色で示している北側部分に一列に配置しています。

< P22 : 2階平面図 >

火葬炉1炉に対し、炉前ホールを1室整備し、中央のエレベーターで左右のゾーンに分け、混雑の緩和を図ります。

< P23 : 2階平面図 >

また、霊安室は、ご遺体を約10体お預かりし、面会室も設置します。

< P24 : 3階平面図 >

3階について説明します。

3階は、火葬の間、ご遺族や会葬者の方にお待ちいただくフロアとしています。

< P25 : 3階平面図 >

待合室は40人用とし、中庭に面する配置とします。

火葬炉と同数の16室設けます。

< P26 : 3階平面図 >

中央部分には、待合ロビーや売店・喫茶機能のほか、キッズスペースを設けます。

< P27 : 4階平面図 >

4階について説明します。

4階は、北側に機械室等を配置し、南側には津波発生時の避難スペースを設けます。

< P28 : 環境配慮 >

環境配慮について説明します。

建築物の省エネ性能を高めるため、高効率型の機器を採用するほか、太陽光発電や地中熱等の再生可能エネルギー利用を導入し、環境への負荷低減を図ります。

< P29 : 環境配慮 >

また、木質化に取り組むとともに、既存公園と連続した緑地を整備し、生物多様性の保全に配慮します。

< P30 : 災害対策 >

災害対策について説明します。

計画地は臨海部に位置するため、高潮や津波による浸水被害が想定されています。

< P31 : 災害対策 >

そこで、1階床レベルを既存地盤から約1メートル高くするとともに、火葬炉や受変電設備等の重要機器は津波による浸水深以上に設置します。

また、都市ガスや電力等のインフラが途絶した場合に備え、非常用発電機等の対策を検討しています。

併せて、津波発生時には、斎場利用者のほか計画地周辺の方々の一時的な避難施設として活用できるよう、屋上に避難スペースを確保し、斎場外部からアクセス可能な屋外階段を設けます。

Ⅲ 今後のスケジュール

< P32 : 目次 >

次に、「今後のスケジュール」について説明します。

< P33 : 今後のスケジュール >

表の赤枠で囲んだ部分をご覧ください。

令和3年度は基本設計のほか、都市計画手続を進めています。今年度後半には、実施設計、火葬炉設備工事に着手するとともに、斎場の経営許可手続等を行います。

また、令和4年度から土木工事、令和5年度からは建築工事に着手し、令和7年度の供用開始を予定しています。

< P34 : 質問書の受付について >

最後に、今回の説明内容に関する質問書の受付について説明します。

まず、受付期間についてです。

ご質問の受付と回答は2回に分けて行います。

一次受付は10月25日から10月31日まで、回答は、11月5日を予定しています。

二次受付は11月1日から11月7日まで、回答は、11月11日を予定しています。なお、回答は横浜市ホームページ上で公表します。

次に、提出方法についてですが、

ご質問は任意様式の質問書にご記入の上、郵送・ファックス・Eメールのいずれかの方法で受付期間内に提出してください。

最後に提出先ですが、

それぞれスライドにお示しする提出先に提出してください。

本日の説明は以上となります。今後も、設計等を進めていきますが、進捗状況につきましては、説明会の開催や、広報紙「整備通信」等でお知らせしてまいります。

疑問点等ございましたら、質問書を送付していただくか、または、問合せ先までご連絡をいただけると幸いです。

ご視聴いただきまして、ありがとうございました。